

第32回日本教育大学協会 全国特別支援教育研究部門合同研究集会 佐賀大会（二次案内）

同時開催

第19回佐賀大学教育学部附属特別支援学校研究発表会
2019年佐賀県特別支援教育研究会佐城支部授業研究会

期日

令和元年11月15日（金）～11月16日（土）

会場

ホテル グランデはがくれ（佐賀市天神2丁目1番36号 TEL 0952-25-2212）

大会テーマ

「児童生徒の確かな学びをつなぐカリキュラム・マネジメントの確立を目指して」
～明日の授業につながる附特システムの構築～

日程

第1日目（11月15日）

8:30	9:00	9:30	10:20	10:30	12:00	13:00	15:45		
受付	開会式	全校研究報告	移動休憩	学部別授業研究会 (ビデオ提案)	昼食 理事会	合同研究集会分科会			
						分科会Ⅰ	分科会Ⅱ	分科会Ⅲ	

教育懇談会 18:00～20:00 グランデはがくれ フラワーホール

第2日目（11月16日）

8:30	9:00	9:45	10:00	11:30	12:00	
受付	情報交換会	移動休憩	記念講演 (丹野哲也先生)	閉会式	終了後、教大協総会があります	

主催

日本教育大学協会全国特別支援教育研究部門
国立大学法人佐賀大学 佐賀大学教育学部附属特別支援学校

後援

文部科学省 佐賀県教育委員会 佐賀市教育委員会
佐賀県特別支援学校長会 佐賀県特別支援学級設置校長会
佐賀県特別支援教育研究会

ごあいさつ

第32回合同研究集会佐賀大会は『児童生徒の確かな学びをつなぐカリキュラム・マネジメントの確立を目指して～明日の授業につながる附特システムの構築～』をテーマとしています。

通年ならば佐賀大学教育学部附属特別支援学校におきまして公開授業を実施するところですが、現在、改修につき公開授業を行うことができません。そこで本研究集会では日頃の授業を教材に、ビデオ提案という新しい試みをしています。

分科会におきましては、6つのカテゴリー①特別支援教育を担う教員養成②教科指導の成果を活かす生活単元学習の実践③特別支援教育における「主体的な学び・対話的な学び・深い学び」④知的障害教育における教科指導⑤カリキュラム・マネジメントの取り組み⑥自立活動の取り組みと実践について意見交換を行うとともに、ご参会の皆様にとりまして実りある大会にしたいと願っております。多数のご来客をお待ちしています。

令和元年7月20日

教大協合同研究集会佐賀大会実行委員長 小野 文慈

本校では、中教審答申や新学習指導要領の告示を受けて、平成30年度から「カリキュラム・マネジメントの確立」をテーマに研究に取り組んでまいりました。そこで、進めていくための枠組みや方法である「附特システム」を構築し、カリキュラム・マネジメントの実践を行いながら、小中高での学びの系統性を確立しようと努めてきました。

今年度、校舎の改修工事と重なり、校内での研究授業をお見せできないなど、数々の制約の中での発表となり、不十分な点も多くあろうと存じます。ぜひ、多くの方々からご意見・ご指導をいただき、本研究集会を実り多きものにしていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

令和元年7月20日

佐賀大学教育学部附属特別支援学校 校長 本告 靖之

参加費

無料

昼食

1,100円

宿泊

佐賀駅周辺の宿泊施設に直接お問い合わせください。

参加申込み

参加申込書をFAXまたはメールにてお送りください。

【申込み先】

佐賀大学教育学部附属特別支援学校
教頭 西岡 徳利
<E-mail> su2287@cc.saga-u.ac.jp
<FAX> 0952-28-3850

【問合せ先】

佐賀大学教育学部附属特別支援学校
佐賀市本庄町大字正里46-2
<TEL> 0952-29-5045

締切：令和元年10月25日（金）

交通案内



JR利用 博多駅から特急で37分 ▶ JR佐賀駅から徒歩6分

航空機利用 福岡空港から高速バスで70分
佐賀空港からバスで35分
▶ 佐賀駅バスセンターより徒歩8分

自家用車利用 長崎自動車道「佐賀大和I.C.」より車で約15分
天神二丁目信号がホテル入口です。

駐車場 お客様170台収容
グランデはがくれ敷地内駐車場に駐車された場合には、駐車券をフロントにお持ちください。グランデはがくれをご利用のお客様には、ご利用時間に応じて駐車料金のサービスがあります。

第1日目:11月15日(金)

全校研究報告

学部別授業研究会(ビデオ提案)

小中高3つの会場に分かれて授業研究会を行います。各学部下記の単元で今年度前期に授業実践を行いました。研究会当日は、授業の様子をビデオで振り返りながら提案致します。授業づくりだけでなく、児童生徒の個人目標設定や授業後の評価及び評価の生かし方について参加者のみなさんと協議を行いたいと考えています。

小学部

生活単元学習 単元名「しんぶんしであそぼう」

- 提案者 小野真智子 (佐賀大学教育学部附属特別支援学校 教諭)
大曲百合香 (佐賀大学教育学部附属特別支援学校 教諭)
- 指導助言 芳野正昭 (佐賀大学教育学部 教授)

中学部

数学 単元名「数と計算」

- 提案者 副島千鶴 (佐賀大学教育学部附属特別支援学校 教諭)
大島美和子 (佐賀大学教育学部附属特別支援学校 教諭)
- 指導助言 松山郁夫 (佐賀大学教育学部 教授)

高等部

作業学習 単元名「販売会に向けてよりよい製品を作ろう」

- 提案者 徳島崇 (佐賀大学教育学部附属特別支援学校 教諭)
廣瀬優佳里 (佐賀大学教育学部附属特別支援学校 教諭)
溝口薫子 (佐賀大学教育学部附属特別支援学校 教諭)
- 指導助言 中村尚志 (佐賀大学教育学部附属教育実践総合センター准教授)

「児童生徒の確かな学びをつなぐカリキュラム・マネジメントの確立を目指して」
～明日の授業につながる附特システムの構築～

提案者 中村寛志 (佐賀大学教育学部附属特別支援学校 研究主任)

合同研究集会分科会

時間帯	No(仮)	学校名	氏名	カテゴリー	話題内容	コーディネーター
分科会Ⅰ 13:00 13:45	1-1	秋田大学教育文化学部附属特別支援学校	伊岡森 真由	④	「生徒の願い」の実現に向けた、物語を題材とした国語の授業づくり ～私の応援計画(個別的教育支援計画)をもとに～	佐賀大学 芳野 正昭
	1-2	山形大学附属特別支援学校	近藤 真知子	③	一人一人が生き生きと活動する姿を求めて	佐賀大学 松山 郁夫
	1-3	熊本大学教育学部附属特別支援学校	多田 肇	⑤	新学習指導要領を見据えたカリキュラム・マネジメント ～熊大式マネジメントシステムの構築～	熊本大学 菊池 哲平
	1-4	鹿児島大学教育学部附属特別支援学校	川越 正仁	③	ペア学習による課題解決の実践	佐賀大学 日高 茂暢
	1-5	鹿児島大学	雲井 未歎	①	教員養成における理論と実践の往還	東京学芸大学 瀧田 豊彦 村山 拓
分科会Ⅱ 14:00 14:45	2-1	福岡教育大学附属福岡小学校	藤 康宏	④⑥	生活をつくり出す子供を育む教育課程の編成	福岡教育大学大学院 納富 恵子
	2-2	長崎大学教育学部附属特別支援学校	池田 麻希	④	小学部における図画工作科の指導	長崎大学 石川 衣紀
	2-3	熊本大学教育学部附属特別支援学校	小田 貴史	③	小学部「生活科」における主体的・対話的で深い学びとなる授業実践	熊本大学 本吉 大介
	2-4	大分大学教育学部附属特別支援学校	梅村 匠人	③	主体的・対話的で深い学びの実現を目指した遊びの指導 ～年間を通した学びの高まりの工夫と実践～	大分大学 衛藤 裕司
	2-5	福岡教育大学	相澤 宏充	①	教員養成における理論と実践の往還	東京学芸大学 瀧田 豊彦 村山 拓
分科会Ⅲ 15:00 15:45	3-1	熊本大学教育学部附属特別支援学校	倉田 沙耶香	③	音や音楽を、体感しよう、聴き取ろう、そして楽しもう ～音楽鑑賞会の取り組み～	熊本大学 藤原 志帆
	3-2	福岡教育大学附属福岡中学校	林 誠之	②⑤	教科等横断的な視点を明らかにした生活単元学習の取り組み	福岡教育大学 中山 健
	3-3	鹿児島大学教育学部附属特別支援学校	上仮屋 祐介	⑤	子どもの学びから始めるカリキュラム・マネジメント	鹿児島大学 雲井 未歎
	3-4	大分大学教育学部附属特別支援学校	足立 充弘	④	生活に生きる数学科の指導 ～題材の配列と計画を工夫した『集合数』の実践～	大分大学 藤野 陽生
	3-5	東京学芸大学教職大学院	藤野 博	①	教員養成における理論と実践の往還	東京学芸大学 瀧田 豊彦 村山 拓

【分科会カテゴリー】 ①特別支援教育を担う教員養成 ②教科指導の成果を活かす生活単元学習の実践 ③特別支援教育における「主体的な学び・対話的な学び・深い学び」 ④知的障害教育における教科指導 ⑤カリキュラム・マネジメントの取り組み ⑥自立活動の取り組みと実践

第2日目:11月16日(土)

情報交換会

他校の先生と自由に情報交換をしましょう。他の学校の様子や授業の取り組みを聞いたり、自身の教育活動の中で困っていることを相談したりしてみませんか。テーマを決めたグループや自由なテーマのグループを作り、和気藹々と意見交換を進めていきます。

記念講演

『新学習指導要領に基づくカリキュラム・マネジメントの推進』

東京都教育庁指導部 特別支援教育指導課長
(前 文部科学省初等中等教育局視学官)

丹野 哲也 先生

今般の学習指導要領の改訂に向けた中央教育審議会答申に至るまでの過程では、様々な国内外の研究的側面からの知見を踏まえた審議が行われ、学習指導要領の総則においてカリキュラム・マネジメントについて規定された。このことは、すべての教師の共通の言葉として位置づけられたことであり、その意義は極めて大きい。

カリキュラム・マネジメントについては、児童生徒の教育をさらに充実・発展させるための手段であり、目的ではないことに留意しながらも、その具体について、実践事例を蓄積する帰納的な手法により明示していく必要がある。

学校教育目標の達成に向けて、教育活動をどのように計画していくのか、各校のカリキュラム・マネジメントに関する実践研究が活性化されていくことが期待される。